

和名：カンキツグリーニング病菌

学名：*Candidatus Liberibacter africanus*, *Candidatus Liberibacter americanus*, *Candidatus Liberibacter asiaticus*

英名：Citrus huanglongbing (greening) disease

分布

インド、インドネシア、カンボジア、スリランカ、タイ、台湾、中華人民共和国、日本（沖縄県及び奄美群島の一部）、パキスタン、フィリピン、ベトナム、マレーシア、イラン、サウジアラビア、米国、キューバ、ドミニカ共和国、プエルトリコ、メキシコ、ブラジル、アフリカ、パプアニューギニア等

宿主植物

カラタチ属、キンカン属、ミカン属等の植物

病原体

師部局在性の細菌で人工培養ができないことから学名に *Candidatus* を付している。カンキツグリーニング病を引き起こす細菌として、主にアフリカに分布し低い気温で病気を起こす *Ca. Liberibacter africanus*、アジア、北南米等に分布し高い気温（30℃以上）でも病気を起こす *Ca. Liberibacter asiaticus*、ブラジルで発見された *Ca. Liberibacter americanus* の3種が知られている。このうち我が国には、*Ca. Liberibacter asiaticus* が分布している。伝搬方法は接ぎ木のほか、2種の媒介昆虫、すなわちアフリカなどに分布するミカントガリキジラミ（*Trioza erythrae*）及び我が国にも分布するミカンキジラミ（*Diaphorina citri*：図①）による。

病徴及び被害

感染の初期には一部の枝の葉がまだら状に黄色を呈するが、症状が進むにつれ全体が黄化し（図②）、落葉、落果、枝枯れが生じやがて枯死する。最も特徴的な病斑は亜鉛欠乏症に似た葉の退緑である（図③）。成熟葉では主脈間に不規則な斑紋が生じ、葉脈にのみ緑色が残る場合や、葉脈が隆起しコルク化することもある。感染した植物の果実は発育不良、奇形となり、成熟前に落果することが多く、着色不良となって緑色の斑紋が残ることがグリーニング病と呼ばれる所以となっている（図④）。



図 媒介昆虫及びカンキツの病徴

①：ミカンキジラミ成虫、②：発病樹（左）と健全樹（右）、③：葉の退緑症状、④：果実の緑色斑紋